

# 中学校社会科学習指導案

江田島市立江田島中学校  
教諭 藤山英人

1 分野 地理的分野

2 学年 第1学年

3 単元名 「九州地方の工業」

4 単元について

(1) 単元観

本単元は、中学校学習指導要領社会（平成20年）の内容「(2)日本の様々な地域」の「ウ 日本の諸地域 (ウ) 産業を中核とした考察」を単元化したものである。主なねらいは、九州地方の工業について、他の地域との関係や輸送手段などについて考察することを通して、工業立地に関する理論を理解させることである。工業立地には、操業していく上で最も有利な条件を備えている地域に工場が建設されるという法則性がみられる。具体的には、気候風土が適していること、原材料が低廉かつ容易に得られること、必要とされる労働力が得やすいこと、製品の消費地に近いこと、原材料や製品の輸送に適した交通機関が整備されていることなどが挙げられる。

九州地方では、中国からの鉄鉱石が輸入しやすく、地元で石炭が産出されたという地理的環境から、20世紀初頭より沿岸部に重化学工業の工業地帯が発展するという地方的特殊性が見られるとともに、近年では空港や高速道路周辺に工業団地が広がっているという一般的共通性が見られる。これらの地方的特殊性と一般的共通性を、地形、資源、輸送手段の整備などの自然的条件と社会的条件を関連付けて考察することにより、地理的な見方や考え方の基礎を培うことができるものと考え、本単元を設定した。

(2) 生徒観（本指導案は、次のような生徒を想定して作成している。）

本学級の生徒は、概ね意欲的に社会科の学習に取り組んでいる。しかし、社会科の学習内容について、個別の知識を暗記するだけにとどまっている生徒が多く、日本の産業の学習についても個別の地域の産業に関する知識を羅列的に暗記する段階にとどまっている。また、資料から複数の社会的事象に関する事実を取り出すことはできても、それらを関連付けて考察することは苦手であり、ある地域の産業の特徴をその地域の自然的条件や社会的条件と関連付けて考察することが十分できていない段階にある。

(3) 指導観

指導にあたっては、単元を通じて習得させる知識を整理するとともに、提示された資料を基に系統的に考察することによって、生徒が工業立地に関する理論を習得できるように授業を構成する。

また、学習展開については、中学校学習指導要領解説社会編（平成20年）に例示された学習段階にならない、まず「地域の特色を示す地理的事象を見いだす段階」、続いて「中核とした事柄を他の事象と関連付けて追究する段階」、最後に「追究の過程や結果を表現する段階」の順で学習を進める。

5 単元の目標

九州地方の工業について、統計資料や地図の活用を通して、他の地域との関係や輸送手段などについて考察し、工業は効率的な生産活動ができる地域に発展しているという工業地域の立地に関する理論を理解する。

## 6 単元構成

次	学習内容・学習活動	考察の対象
一	九州地方の基礎的な情報(1時間)	○九州の地勢 ○九州各県のデータ ○日本の工業製品における都道府県の市場占有率
二	九州地方の沿岸部に広がる工業地域(2時間) ■戦前に発展した北九州工業地帯とエネルギー革命後に発展した鹿島臨海工業地域との比較	○北九州工業地帯の沿革 ○北九州工業地帯の立地 ○鹿島臨海工業地域の沿革 ○鹿島臨海工業地域の立地 ○エネルギー源の推移 ○原料の輸入先の変化
三	九州地方の内陸部に広がる工業地域(2時間) ■沿岸部に広がる北九州工業地帯と内陸部に広がる熊本県の工業地域との比較	○炭鉱閉山後の筑豊地区 ○九州地方の空港 ○九州地方の高速道路 ○九州地方のI C工場 ○I Cの原材料 ○I Cの出荷先 ○各輸送機関の長所と短所
四	学習のまとめ(1時間) ■工業地域の立地に関する理論	○沿岸部と内陸部の工業地域の共通点と相違点

## 7 単元の評価規準

ア 社会的事象への 関心・意欲・態度	イ 社会的な思考・判断	ウ 資料活用の技能・表現	エ 社会的事象についての 知識・理解
工業地域の成立要因に関心を持ち学習に取り組んでいる。	沿岸部と内陸部の工業地域の成立要因について、周囲の地形や資源、他地域との関係、輸送手段などに関連付けて考察している。	九州地方のどのような場所に工業地域が分布しているか正しく読み取っている。	九州地方の工業に関する地方的特殊性と一般的共通性を理解している。

## 8 単元の指導計画(全6時間)

次	学習内容(時数)	評				価	
		関・意	思・判	技・表	知・理	評価規準	評価方法
一	九州地方の基礎的な情報(1時間)	○		◎		○工業地域が成立する要因に関心をもっている。 ○九州地方の工業地域の分布を正しく読み取っている。	ワークシート
二	九州地方の沿岸部に広がる工業地域(2時間)		○		◎	○九州地方の沿岸部に工業地域がみられる理由(地方的特殊性)を、周囲の地形や資源と関連付けて考察している。 ○沿岸部に発展する工業の特徴(一般的共通性)を、原材料の入手先や輸送手段と関連付けて理解している。	ワークシート

三	九州地方の内陸部に広がる工業地域 (2時間)		◎		○九州地方の内陸部に工業地域がみられる理由(地方的特殊性)を、周囲の地形や資源、輸送手段などに関連付けて考察している。 ○製品の特性と輸送手段との関係性(一般的共通性)について理解している。	ワークシート
四	学習のまとめ (1時間)		◎		○沿岸部と内陸部の工業地域にみられる共通点と相違点を、原材料の入手方法と製品の出荷先、輸送手段などに関連付けて考察している。	ワークシート

## 9 学習活動の展開

### 第1時【九州地方の基礎データ】

- ・複数の資料を読み取る活動を通して、工業地域の成立要因に関心を持つ。
- ・地図などを活用し、九州地方の工業地域の分布を読み取る。

学習内容・学習活動・主な発問	指導上の留意事項	評価規準(評価方法)
1 学習課題の把握		
九州地方の工業に関する情報を集めよう。		
2 九州地方の地勢 ■九州地方の都道府県名や地形などを、白地図中に書き入れよう。	○県名、主な都市名、山地や地形の名称を空欄にした九州地方の白地図に書き込ませる。 ○地図帳を活用して記入させる。	
3 九州地方の工業に関する情報 ■九州地方の統計資料から、工業に関する情報を集めよう。  ■九州地方の工業地域は、どんな場所にみられますか。 生徒…沿岸部に多くみられる。 沿岸部でなくても、高速道路周辺には多くみられる。 鉄道周辺に多くみられる。	○九州地方各県の人口、産業別人口の割合、主な工業製品、主な工業地域の場所などについて情報を収集させる。 ○収集した情報を関連付けて考えさせる。	ウ 九州地方の工業地域の分布を正しく読み取っている。 (ワークシート)
4 まとめ ■工業地域は、どんな場所に発展するのか、仮説を立てよう。 生徒…工業地域は、沿岸部に発展する。 工業地域は高速道路周辺に発展する。 工業地域は鉄道沿線に発展する。 など	○生徒からの発表をもとに、追究する仮説を設定する。	ア 工業地域の成立要因に関心をもち学習に取り組んでいる。 (ワークシート)

第2時【鉄道と鉄鋼業】

○周囲の地形や資源と関連付けて考察することにより，九州地方の沿岸部に工業地域がみられる理由（地方的特殊性）を理解する。

学習内容・学習活動・主な発問	指導上の留意事項	評価規準（評価方法）
1 学習課題の把握		
九州地方の沿岸部には，どのような工業が，どんな理由でみられるのだろうか。		
2 北九州工業地帯の概要 ■北九州工業地帯の場所を地図帳で確認しよう。 ■2002年の北九州工業地帯の工業生産額を確認しよう。 ■1960年の北九州工業地帯の工業生産額を確認しよう。	○地図帳にマークさせる。  ○機械工業が最も多い割合を占めていることをおさえる。 ○金属工業が最も多い割合を占めていたことをおさえる。	
3 北九州工業地帯の沿革 ■1900年から1910年にかけて，八幡地区の人口はどのように変化していますか。 生徒…6,460人から28,573人に増加している。 ■1900年から1910年の間に，八幡地区に建設されたものは何ですか。 生徒…八幡製鉄所 ■戦前の八幡製鉄所は，どこから原材料を入手しましたか。 生徒…鉄鉱石：中国 石炭：筑豊炭田 ■それらの原材料は，どうやって運ばれましたか。 生徒…鉄鉱石：船舶 石炭：鉄道	○資料を提示し，読み取らせることにより，思考に必要な情報を得させる。	
4 まとめ ■なぜ，製鉄所の建設地に，八幡地区が選ばれたのでしょうか。 生徒…八幡地区は，筑豊炭田と中国に近く，鉄道や港湾施設も整備できる，鉄鉱石と石炭の入手に適した地域だったから。	○資料から得た情報を関連付けて答えさせる。	イ 九州地方の沿岸部に工業地域がみられる理由を，周囲の地形や資源と関連付けて考察している。 （ワークシート）

第3時【北九州と鹿島】

・北九州工業地帯と鹿島臨海工業地域とを比較して考察することにより，沿岸部に発展する工業の特徴（一般的共通性）を，原材料の入手先や輸送手段と関連付けて理解する。

学習内容・学習活動・主な発問	指導上の留意事項	評価規準（評価方法）
1 学習課題の把握		
沿岸部には，どのような工業が，どんな理由でみられるのだろうか。		

<p>2 一次エネルギーの推移</p> <p>■筑豊地方のボタ山は、これから大きくなるか、それとも大きくならないのかについて考えよう。 生徒…筑豊炭田はすでに閉山しているから、ボタ山が大きくなることはない。</p> <p>■日本全体でみると、石炭の生産はどうなっていますか。 生徒…日本の石炭生産量は、1960年以降減少し続けている。</p> <p>■なぜ石炭の生産量が少なくなっているのだろう。 生徒…エネルギー革命が起き、石炭に代わって石油が使われるようになったから。</p>	<p>○エネルギー革命の概要について確認する。</p>	
<p>3 鹿島臨海工業地域</p> <p>■鹿島臨海工業地域は、いつ開発されましたか。 生徒…1960年に構想が発表され、1963年から1984年にかけて開発された。</p> <p>■鹿島臨海工業地域では、どんな工業がさかんですか。 生徒…鉄鋼業、石油化学工業</p> <p>■鹿島臨海工業地域は、どこから原材料を入手していますか。 生徒…鉄鉱石：オーストラリア 石油：中東</p> <p>■鹿島臨海工業地域の製品は、どこに、どうやって運ばれていますか。 生徒…鉄道やトラックにより、京浜工業地帯や京葉工業地域へ運ばれる。</p> <p>■なぜ、鹿島臨海工業地域は発展したのだろう。 生徒…鹿島臨海工業地域は、鉄鉱石と石油の輸入と、京浜工業地帯への製品輸送に適した地域であるため、重化学コンビナートが建設され鉄鋼業を中心に発展した。</p>	<p>○年表を活用させ、答えさせる。 ○鹿島臨海工業地域の位置を示した地図と鹿島臨海工業地域の写真を提示し、概要をおさえる。</p> <p>○前時に学習した北九州工業地帯と関連付け、鉄鋼業がさかんであることを着目させる。 ○原材料の輸入先が、八幡製鉄所が建設された時と違うことに着目させる。</p> <p>○資料から得た情報を関連付けて答えさせる。</p>	
<p>4 北九州と鹿島との比較</p> <p>■北九州工業地帯と鹿島臨海工業地域の共通点と相違点はそれぞれ何ですか。 生徒…どちらも沿岸部である。 どちらも港湾施設、鉄道、道路網が整備されている。 どちらも原材料を船舶で輸入している。</p>	<p>○地形や位置などの自然的条件、交通機関や他の地域との関係などの社会的条件に着目して考えさせる。</p>	

<p>どちらも鉄鋼業がさかんである。 鹿島臨海工業地域は、北九州工業地帯と違い、製品の出荷先に近い。</p> <p>5 まとめ</p> <p>■沿岸部には、どのような工業が、どんな理由でみられるのかについてまとめよう。</p> <p>生徒…沿岸部には、鉄鋼業が多くみられる。その理由は、原材料を船舶によって輸入するためである。また、製品の出荷に便利な地域は発展し、そうでない地域は不利である。</p>	<p>○北九州工業地帯と鹿島臨海工業地域とを比較して考察した内容を関連付けて記述させる。</p>	<p>エ</p> <p>原料を外国から船で輸入する鉄鋼業が、沿岸部に成立する理由を理解している。 (ワークシート)</p>
--	--	---

第4時【炭田から工業団地へ】

○九州地方の内陸部に工業地域がみられる理由（地方的特殊性）を、周囲の地形や資源、輸送手段などと関連付けて考察する。

学習内容・学習活動・主な発問	指導上の留意事項	評価規準（評価方法）
<p>1 学習課題の把握</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;">炭鉱が閉山された筑豊地区は、どのように変化したのだろうか。</p>		
<p>2 炭鉱閉山後の筑豊地方</p> <p>■1960年代以降の筑豊地区には、どのような変化がみられたらう。</p> <p>生徒…炭鉱がさびれ、そこで働いていた人たちの仕事なくなり困った。</p> <p>■筑豊炭田だった場所は、現在何になっていますか。</p> <p>生徒…工業団地、I C工場</p>	<p>○前時の学習内容（エネルギー革命）と関連付けて考えさせる。</p> <p>○地図を活用させ、答えさせる。</p> <p>○写真を提示し、イメージの具体化を図る。</p>	
<p>3 筑豊地区の工業団地</p> <p>■筑豊地区の工業団地で製造されているものの特徴は何ですか。</p> <p>生徒…軽量の製品や小型の製品が多い。</p> <p>■筑豊地区の工業団地の製品は、何を使って輸送されるのでしょうか。</p> <p>生徒…トラック</p> <p>■筑豊地区に軽くて小さな製品を作る工場が多くみられるのはなぜだろう。</p> <p>生徒…周辺に道路網や高速道路が整備されていて、トラックでの輸送に適しているから。大型船舶のように、大きくて重い製品を輸送することができないトラックで製品を輸送するから。</p>	<p>○工業団地の企業一覧から必要な情報を取り出して考察させる。</p> <p>○製品の性質と輸送手段との関連に着目させる。</p>	

<p>4 まとめ</p> <p>■なぜ、筑豊地方に工業団地が誘致されたのかについてまとめよう。</p> <p>生徒…軽くて小さな製品なら、トラックで輸送できるため、周辺に道路網や高速道路が整備されている筑豊地方は、軽くて小さな製品をトラックで輸送する工業に適した地域だから。</p>	<p>○生徒の発表を踏まえてまとめる。</p>	<p>イ</p> <p>九州地方の内陸部に工業地域がみられる理由を、周囲の地形や資源、他地域との関係と関連付けて考察している。</p> <p>(ワークシート)</p>
---	-------------------------	---

第5時【内陸部の工業地域と輸送手段】

- 九州地方にI C工場が建設された要因を考察することを通して、製品の特性と輸送手段との関係性(一般的共通性)について理解する。

学習内容・学習活動・主な発問	指導上の留意事項	評価規準(評価方法)
<p>1 学習課題の把握</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>なぜ、九州地方にI C工場が多くみられるのか。</p> </div> <p>■I Cとはどんなものだろう。</p> <p>生徒…集積回路</p> <p>■I Cの製造過程を確認しよう。</p>	<p>○I Cの生産に必要な部品は、国内外の関連工場から輸送されていることをおさえる。</p> <p>○I Cを製造するためには、きれいな水が大量に必要であることをおさえる。</p>	
<p>2 I C工場の分布の確認</p> <p>■九州地方のI C工場の場所を、地図帳で確認しよう。</p> <p>■九州地方のI C工場の近くに共通してみられる施設は何ですか。</p> <p>生徒…空港, 高速道路</p> <p>■九州地方のI C工場は、自然環境に着目すると、どのような場所に位置していますか。</p> <p>生徒…内陸部, 川の流域</p>	<p>○I Cの生産における九州地方のシェア, シリコンバレーについておさえる。</p> <p>○工場の立地には、交通機関などの社会的条件と、地形などの自然的条件が関係していることに気付かせる。</p>	
<p>3 I C工場の立地条件の考察①</p> <p>■九州地方のI C工場は、なぜ川の流域に分布しているのだろう。</p> <p>生徒…良質な地下水が豊富な九州地方では、I Cの製造に必要なである、きれいな水が確保できるから。</p>	<p>○九州地方にI C工場を持つ企業のHPの一部を資料として提示し、多様なテキストに対応した読む能力の育成を図る。</p>	
<p>4 I C工場の立地条件の考察②</p> <p>■九州地方のI C工場は、なぜ空港や高速道路の近くに分布しているのだろう。</p> <p>生徒…小さくて軽量のI Cを、国内に輸送するために、高速道路の近くに工場があると便利だから。</p>	<p>○複数の資料を提示し、それらの中から必要な情報を関連付けて答えさせる。</p> <p>[関連付けさせる資料の例]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>博多港, 福岡空港からの輸出品目とその割合を示したグラフ</li> </ul>	

<p>小さく軽量で、単価の高い I C を、早く輸送するためには、空港の近くに工場があると便利だから。          空港と高速道路の両方が近くにあると、小さく軽量で、単価の高い I C を輸送する際に、目的に応じて使い分けることができるから。</p>	<p>・航空機，船，トラック，鉄道による輸送におけるコスト，時間などを比較し，まとめた資料</p>	
<p>5 まとめ</p> <p>■なぜ，九州地方には I C 工場が多くみられるのだろうか。          生徒…九州地方では，I C の製造に必要なきれいな地下水が手に入り，部品と製品の輸送に便利な高速道路や空港が整備されているから。</p> <p>■高速道路や空港の近くに発展するのは，I C 工場だけだろうか。          生徒…他の地域から部品を運ぶ，小型で軽量の製品を製造する工場であれば，I C 工場でなくてもよい。</p>	<p>○製品の特性と輸送機関との関連に着目させる。</p> <p>○本時で学習した知識が他の事象（工業製品など）にも活用できることに気付かせる。</p>	<p>エ          高速道路や飛行機で製品を輸送する機械工業が，九州地方の内陸部にみられる理由を理解している。          (ワークシート)</p>

第6時【学習のまとめ】

○沿岸部と内陸部の工業地域にみられる共通点と相違点を，原材料の入手方法と製品の出荷先，輸送手段などに関連付けて考察する。

学習内容・学習活動・主な発問	指導上の留意事項	評価規準（評価方法）
<p>1 学習課題の把握</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: 80%;"> <p>工業は，どんな地域に発展するのかをまとめよう。</p> </div>		
<p>2 九州地方の工業のまとめ</p> <p>■九州地方の工業地域には，どんな特徴がありましたか。          生徒…鉄鋼業の原材料を得やすい時期に，北九州の沿岸部に鉄鋼業が発展した。          エネルギー革命以降，石炭の生産は衰えたが，きれいで豊富な地下水を利用した I C 工業が空港や高速道路周辺に発展している。</p>	<p>○既習の内容を関連付けて考察させる。</p>	
<p>3 工業地域の一般的共通性</p> <p>■沿岸部の工業地域と内陸部の工業地域には，どのような共通点と相違点がありますか。          生徒…沿岸部の工業地域では，重くて大きなものを船舶で輸送する鉄鋼業などが発展している。</p>	<p>○製品の特性や輸送手段との関連などに着目させる。</p>	<p>イ          沿岸部と内陸部の工業地域にみられる共通点と相違点を，既習内容を関連付けて考察している。          (ワークシート)</p>

<p>内陸部の工業地域では、軽くて小さなものを、トラックや飛行機で輸送する工業が発展している。</p> <p>どちらの工業地域も、その地域の工業に合った輸送機関が整備されている。</p> <p>どちらの工業地域も、原料や製品の輸送に便利な場所で発展している。</p> <p>■「どんな場所に工業が発展するのか」について、地図とグラフを活用し、簡単な説明文にまとめよう。</p> <p>生徒…工業地域は、原料や製品の輸送に便利な場所で発展している。</p> <p>4 新たな問いの発見</p> <p>■今回の学習をもとに、他の地域や他の産業について、新たな問いを発見しよう。</p> <p>生徒…広島県の工業地域も同様か。他の産業ではどうなのか。</p>	<p>○沿岸部の工業地域と内陸部の工業地域の共通点に着目させ、まとめさせる。</p> <p>○生徒の発表を踏まえて、本単元の学習活動についてまとめる。</p>	<p>ア</p> <p>工業地域の成立要因に関心を持ち学習に取り組んでいる。</p> <p>(ワークシート)</p>
--	---	--